



◀ 出張などでの学びを共有しよう ～法人トップ管理者のための経営講座 ▶ 【小池専務】

放射能汚染が発生するものについて想定外は許されない。

講演「核と原子力にかけた愚かな夢」より～ 元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏

NHK
NEWS

能登半島地震により志賀原発一時
外部電源一部使えない事態が発生

志賀原発

核兵器における原爆被害は分かり易く理解されやすいが、原発そのものは事故を起こさない限り、表に出ることはなく、ひそかに膨大な核廃棄物を生み出し続ける。

しかしながら、事故は起きる。事故の可能性があっても、可能性が極めて低ければ、考慮されない。だから想定されていても事故が起きれば想定外だという。ただ、放射能汚染が発生するものについて想定外は許されない。人間が無害化できない放射能廃棄物をどんどん生み出すシステムは稼働してはならない。特に地盤の安定していない日本にかくも多くの原発を作るなど正気の沙汰とは思えない。

かくして事故は起きてしまい、その結果、多くの人々が放射線管理区域並みかそれ以上の汚染地域に住まわされることになった。完全に国の棄民政策だ。本当に怒りを覚える。それでも原発をやめられないのはなぜか。原発マフィアの存在、国、東電、原発メーカーなどに加え、原爆の材料を確保したいという国の見えざる意志によるものではないかというの勘ぐりすぎか。国に対する不信がぬぐえない中で、地元の約束を反故にして処理水を海洋放出するとは誰のためなのか、何のためなのかを問いたくなる。それが破綻した再処理工場の稼働のためだとすれば、まだそんなものにすがっているのかと嘆きにも似た気持ちになる。

一方で温暖化対策にも役立たない原発についても触れられていたが、埋蔵化石燃料に比べてもウランの資源量は少なく、将来を支えるエネルギー源にならないことが良く分かった。新エネルギー源として核融合の話も出ているが、太陽エネルギーを使う方がよっぽど理にかなっている。

このような中で私たちがすべきことは何か。あきらめず本日のような話を地道に広げ、理解者を広げていくことと、社会へのアピール行動を続けていくこと、そして我々の声の代弁者となる議員を選出することだろう。小出先生自身も街頭に立たれることを続けているのは素晴らしい。我々もあきらめずに社会的アピールを続けて原発ゼロの日本を目指して取り組んで行きたい。

定例平和社保宣伝：【市民連合】19日朝7時半/【社保協】25日朝7時半/【憲法C】第2(水)17時半
【革新懇6の日行動】6日12時/【原水協6・9行動】9日12時/【原発なくす会】最終(金)17時半